

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東京電機大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウキョウデンキダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	工学部、未来科学部、工学部第二部、工学研究科、未来科学研究科
	担当教職員名・役職	池内洋子・学生支援センター課長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	24
	受入企業等数	21
	受入企業等名	(株)安川電機、東日本旅客鉄道(株)、富士通研究所(株)、(株)荏原製作所、日本電気計器検定所、新日鐵住金(株)、昭和アステック(株)、ミヨシ油脂(株)、(株)ミライト・テクノロジー、横河マニユファクチャリング(株)、(株)マーレフィルタシステムズ、(株)エスワイシステム、日本アルゴリズム(株)、(株)クレスコ、KOA(株)、(株)アマダホールディングス、(株)シーアールイー、(株)竹内製作所、東武インターテック(株)、サン電子(株)、(株)アルプス技研
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業での実習は、調査研究(学んだ知識の実践活用や確認)・実務実践(1つの部署での実務を体験する)・職場体験(様々な部署を体験し、広く浅く知識を得る)の実習形態で行なっている。また企業人との関わりの中でコミュニケーション力を磨き、企業内での発表会、大学内での報告会としてのプレゼンテーションを実施している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。6.当該インターンシップは、選択科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年、4年、大学院
	2-4.当該インターンシップで与えられる単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学部3年・4年生及び大学院生を対象に、夏季休業中・春季休業中の10日間以上のインターンシップを専門教育科目「インターンシップ」として実施している。なお、春季休業中のインターンシップにおける単位認定は翌年度前期末としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習において、インターンシップガイダンスを行なっている。ガイダンスの内容は、1.履修登録と単位認定、2.概要説明と実施意義、3.全体像の把握と現状理解、4.企業担当者による受入れ視点、5.自己理解、6.企業の選び方、7.ビジネスマナー講座、8.安全に行なうための保険加入と諸手続き方法等を行なっている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習終了後、「インターンシップ実施日誌」「インターンシップ成果報告書」を提出させ、体験の振り返りを行なっている。また、学科毎に成果発表会を行い、実施内容についてのプレゼンテーションの場を設けている。さらにインターンシップに参加した学生を対象とした実施報告会も行なっている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施終了後において、アンケート・成果報告書の提出を義務づけている。また、企業現場で得られた体験をもとにインターンシップ発表会を行い、各自の成果を評価できる場を設けている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日間以上

要素⑤	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄) 5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習期間は、土日を含まず10日間以上としている。ただし、事前事後の履修プログラム内容により10日間に満たない場合でも認める場合がある。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「インターンシップ評価書及び報告書」を用いて企業の担当者に受け入れ学生の評価をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済
問い合わせ先	大学等名	東京電機大学
	担当部署名	学生支援センター
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	池内洋子
	電話番号	03-5284-5344
	メールアドレス	shushoku@jim.dendai.ac.jp